

# 熊本地震：益城町における仮設住宅訪問調査の記憶

東京大学大学院工学系研究科

助教 渡邊 萌



33  
城町

仮設住民の二一  
熊本大学が聞き取

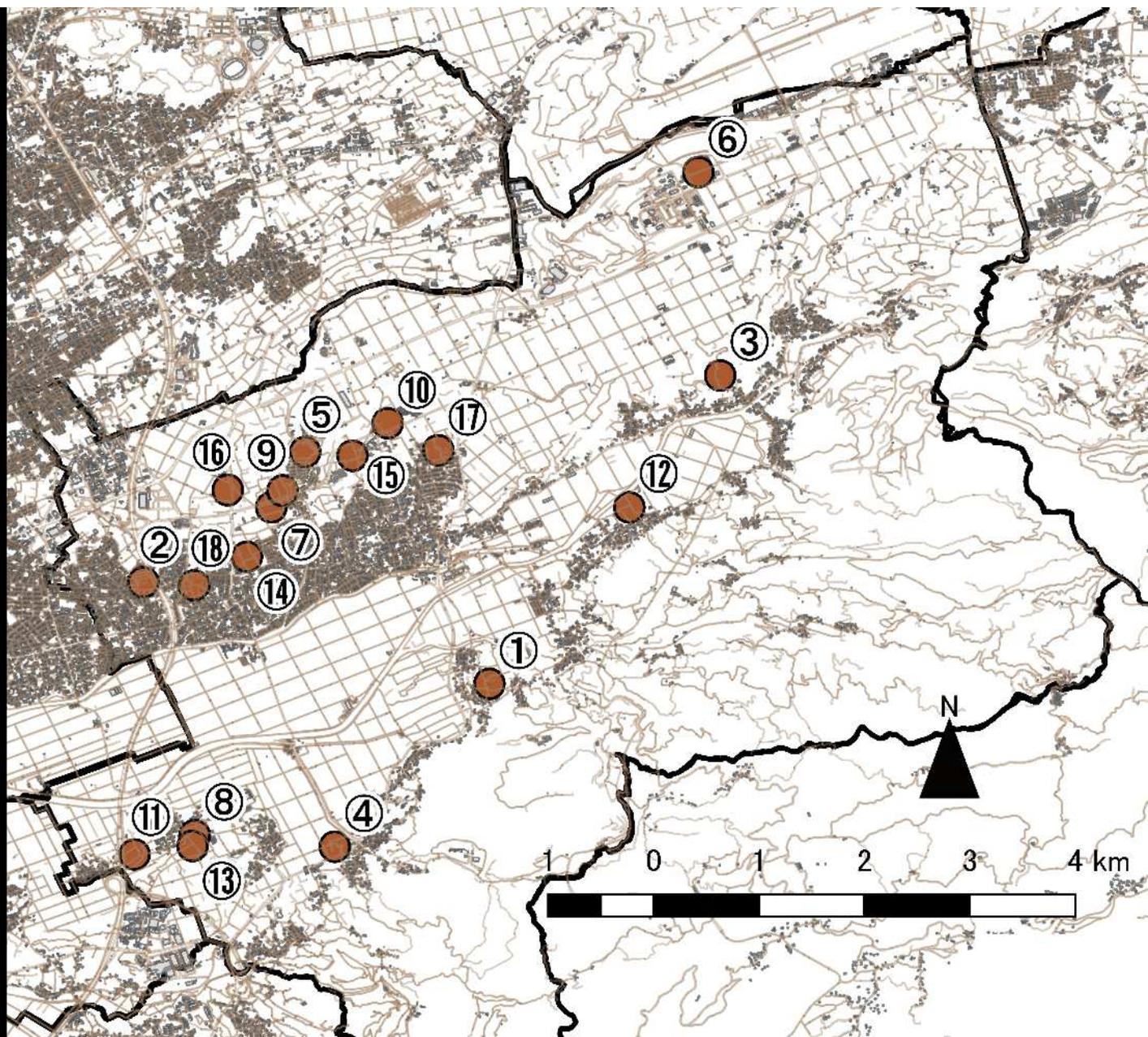
テレビ

聞き取り調査

益城町から委託を受けた熊本大学の  
円山研究室の学生が6月から実施



# 益城町に建設された 仮設住宅団地



(第3種郵便物認可)

# 仮設入居者へ聞き取り

熊本大生らニーズ、不安など把握

## 益城町の復興後



飯野小団地での聞き取り調査で、入居者の話を聞く熊本大の学生たち。19日、益城町

熊本地震で甚大で、熊本大の学生ら者への聞き取り調査設が予定される災害など住民のニーズやる狙い。町が12月に定を見据え、秋までえだ。



熊大が被災地で展開する復興支援プロジェクトの一環。今後、復興とまちづくり支援の拠点「ましきラボ」を益城町内に置き、行政と住民をつないで集いの場の創出や情報発信などに貢献し、町復興の策定に協力する。震災復興デザイン・プロジェクトチームの

熊本大学(都市計画)  
円山琢也准教授

本当の悩みを吐き出す場を作るには



熊本大学ましきラボ開所式

熊本大学  
ましき  
ラボ



熊本大学  
Kumamoto University  
ましき  
ラボ





# 益城町における災害公営住宅整備の流れ

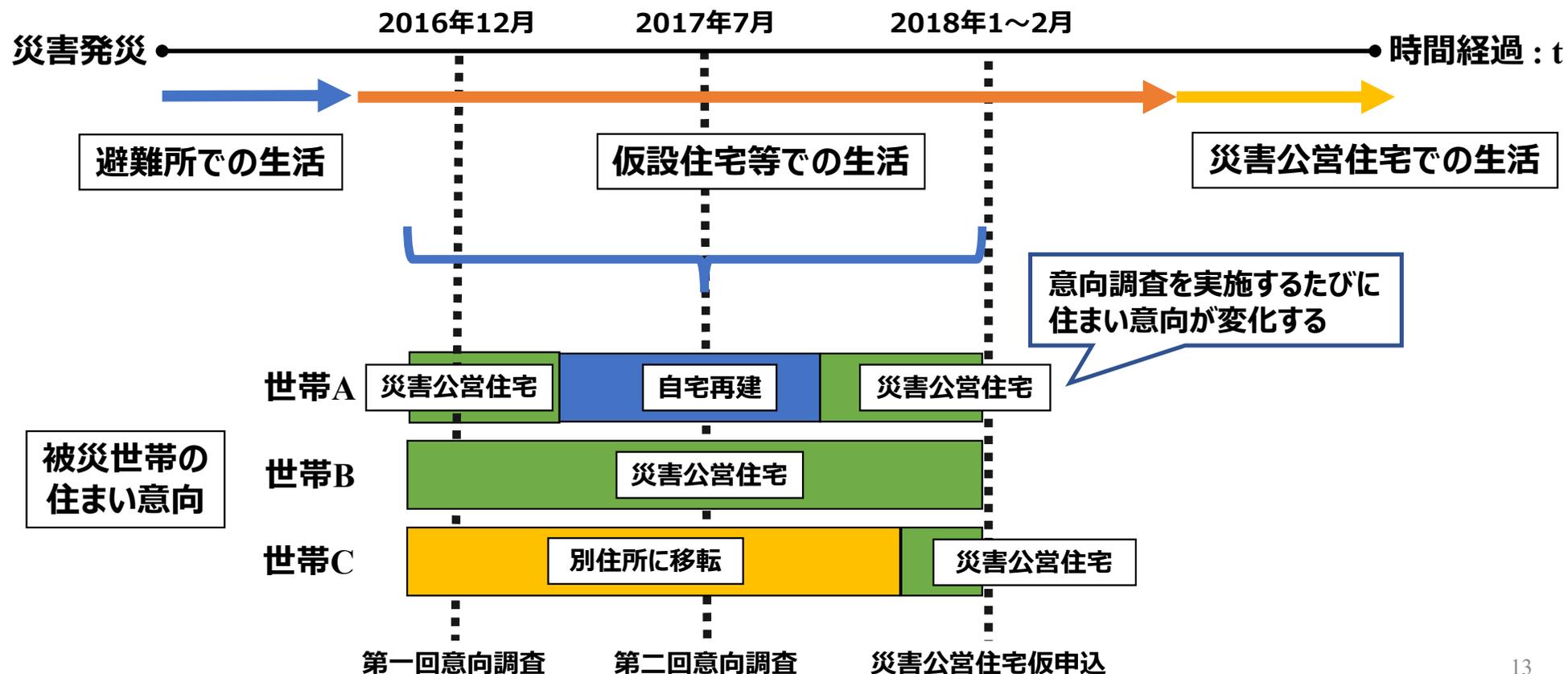
## 災害公営住宅に係るプロセス

年月日	経緯
2016年	
4月	熊本地震発生
6月～11月	応急仮設住宅訪問調査
7月6日	益城町震災復興基本方針策定
10月12日	益城町復興計画骨子策定
12月	第一回意向調査
12月20日	益城町復興計画決定
2017年	
3月	災害公営住宅の供給方針の設定
6月8日～6月18日	益城町災害公営住宅に関する説明会
7月	第二回意向調査
10月31日	災害公営住宅の供給方針の見直し
11月6日～12月6日	応急仮設住宅延長及び 災害公営住宅に係る住民説明会
2018年	
1月15日～2月28日	災害公営住宅の仮申込受付
6月	災害公営住宅の本申込受付
8月18, 19, 25, 26日	災害公営住宅の入居先決定抽選会
11月3, 4, 11日	災害公営住宅の入居前顔合わせ会

- 第一回意向調査（315世帯）  
第二回意向調査（878世帯）が希望
- 意向調査結果より供給戸数を設定（680戸）
- 781件の仮申込を受付
- 697件の本申込を受付（その後辞退あり）  
→ 最終的な供給戸数 671戸

# 意向調査と住まい意向の変化

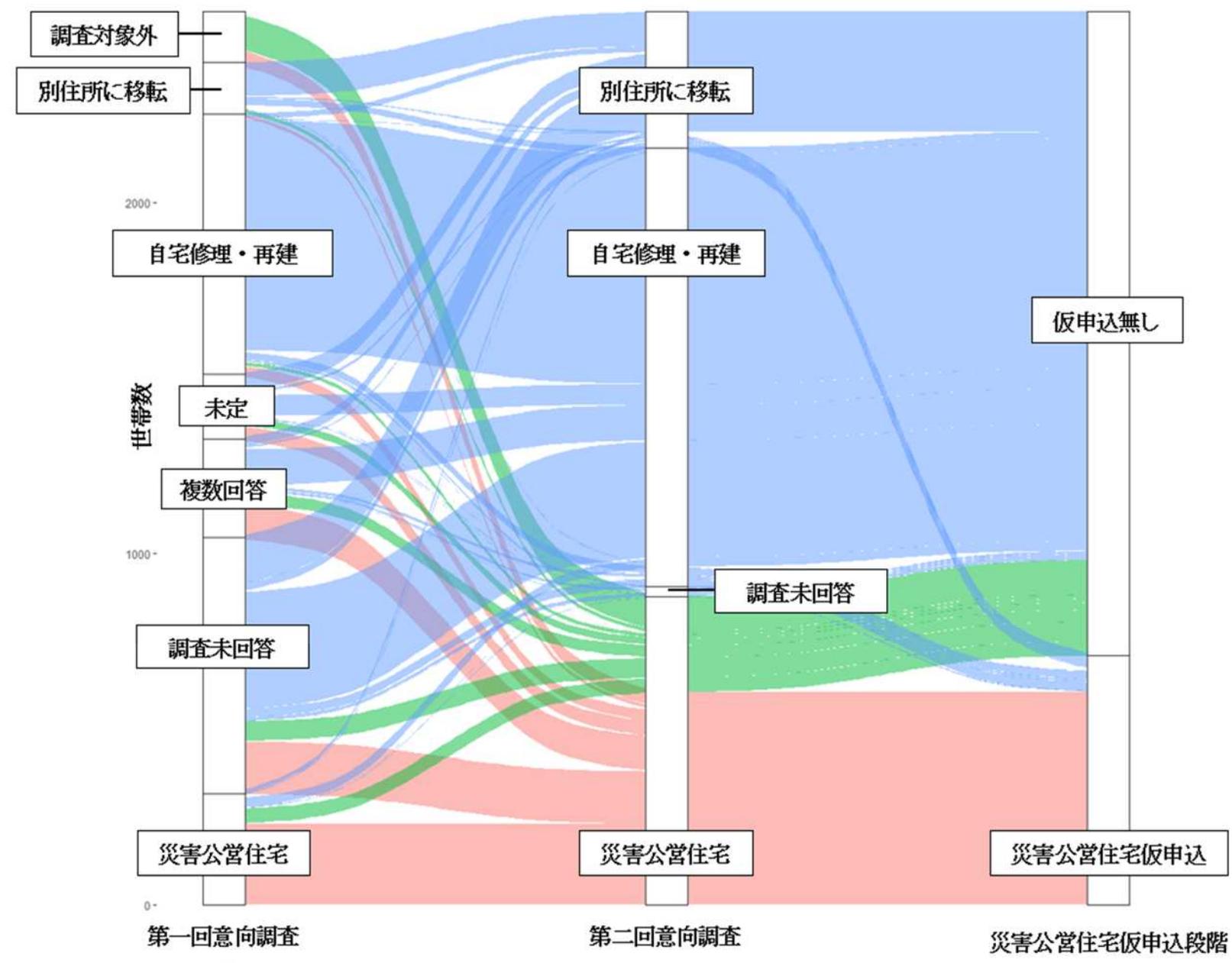
◆ 災害公営住宅に入居予定の仮設住宅入居世帯(A, B, C)を例に



# 三時点における 住まい意向の沖積図

第二回意向調査で災害公営住宅を  
希望した世帯(N=878)のうち

- 仮申込を行った604世帯
- 仮申込を行わなかった274世帯
- その他



# まとめ

- 「将来のことはまだわからない」にどのように寄り添えるか
- 「本当の悩みを吐き出す場」 生活再建に向けて
- 被災者の悩む時間を許容つつ決断を促せるような場づくり